



The Japanese corporate approach to international dispute resolution: a high-level comparison of litigation, arbitration and other forms of ADR

Organizers: ICC International Court of Arbitration, DLA Piper

Co-sponsors: ICC Japan, Nagoya University, Japan International Dispute Resolution Center,
European Business Council in Japan, Japan In-House Lawyers Association

1. 日時、場所： 2022年4月18日 17時～19時 @JIDRC 日本国際紛争解決センター会議室
2. 登壇者(敬称略)： モデレーター Mr. Tony Andriotis DLA Piper 東京事務所 パートナー
スピーカー Ms. Claudia SALOMON, President ICC International Court of Arbitration
 - Mr. Michael MROCZEK, President, European Business Council (EBC)
 - Mr. Joao Ribeiro BIDAUI, First secretary, Hague Conference on Private International Law
 - 藤田和久氏 ICC 仲裁委員会顧問
 - 石川知子氏 名古屋大学院国際開発課教授
 - 飛松純一氏 外苑法律事務所パートナー
 - 早川吉尚氏 JIDRC 事務局長・立教大学教授・瓜生・糸賀法律事務所
ICC 仲裁委員会学識委員
3. 内容： Salomon 所長および各人の挨拶の後、藤田氏より日本企業の裁判・仲裁・調停に対する考え方や重視すべき事項（コスト、相手との力関係等）について、実体験をもとに述べたあと、MROCZEK氏がEBC（欧州ビジネス協会）の観点から意見を述べた。次に、Salomon 所長より ICC 仲裁裁判所としての日本企業への仲裁推進、ICC の役割についてコメントがあり、BIDAUI 氏からは国際裁判の観点と国際裁判管轄合意いわゆるハーグ条約の状況説明があった。（全て英語、日本語同時通訳）
一方、飛松氏、石川氏からは日本企業の裁判に対する考え方、（日本国内では信頼が高い）裁判所の和解を好む傾向などの紹介と、調停に関するシンガポール条約の説明があった。
最後に JIDRC の早川事務局長が JIDRC のプレゼンを行い、2 時間を少し超えてセミナーは終了した。